

# ふみ子の日記

わる口

四年二組じゃないよ

今日一人だけ

ポツンといて

他の人はかたまって

その人を見て

わる口を言っているのを

見た

わる口を言っている人は

その人の表面しか



見ていないんだ

わたしは

ちゃんと中味まで

見られるような

そんな人間になりたい

ふみ子は、静かで目立たない子です。赤ちゃんるとき、ヤカンのお湯をあやまつてかぶりました。それで左かたに、やけどのあとがあります。一度、やけどのあとのことを友達に言われて、家に泣いて帰ったことがあります。でも、水泳のときなど、やけどのあとを気にしているようすを見せません。

ふみ子は前に、自分のクラスのゆうちゃんのことを日記に書いていま

した。

ゆうちゃん

わたしはゆうちゃんと

一年のときに

いっしょなクラスだった

ゆうちゃんはんぼうで

机を投げたりしていた

ことばがでないので

はらがたっても

机を投げたりして

自分の気持ち

おさえていたんだろう

# ふみ子の日記（小学校中学年向け）

## A 教材設定の意図

教室内にいじめがあるとき、自分もいじめる側につかないといじめられるという構造がよくある。その結果、いじめられる側の子どもは孤立する。そしてそのことを親や教師に告発すれば、そのことよってさらにいじめが強まり、陰湿になるといふことがある。こうしていじめられる側の子どもは、いっそう孤立感を深め、身を固くして心に殻をすするようになっていくということがある。

また、いじめられる側にいた子が、集団が変わるといじめる側に立つということがある。集団の中でいじめの構造を知り尽くしている子どもにしてみれば、いじめられないためのもっとも手っ取り早い方法は、いじめる側に回ることだからである。いじめる側の子どもも、いじめられる側の子どもも、そして、いじめられる側からいじめる側に転じた子どもも、そのいじめの構造の中に巻き込まれて、複雑な思いを持っているに違いない。

そんな状況のなかで、親や教師が「いじめはいけないことだからやめなさい」とか「いじめに負けない強い子になりなさい」とどれだけ言っても、子どもの心には届かない。子どもは心に響き、子どもどうしを結びつけるような取り組みを展開したいものである。その一つとして、本教材を設定した。

人を中味まで見るということは、その人の生活の背景を知り、

生活の中でのさまざまな思いを聞いて受け止め、共感を示すという作業を通して成り立つことである。

ここでは、ふみ子という一人の子どもの生き方と、ふみ子がなぜそういうふうに見えるようになったかを理解させ、それぞれのクラスの問題と重ね合わせて考えさせたい。

## B 教材の解説

本教材に登場するゆうちゃん、知的な遅れを持つ「障害児」である。彼女は四年生になってめざましい変容を見せたのだが、それはまわりの子どもたちとの関わりを抜きには考えられない。そのまわりの子どもたちの一人がふみ子である。

ふみ子はゆうちゃんのことを次のように見ている。

一年のとき、らんぼうで机を投げたりしていた。

初めて出会った一年生のとき、ゆうちゃんの行動は、乱暴以外の何ものにも見えなかったのだろう。たぶん、ふみ子以外の子どもたちにとっても同じであつたらう。しかしその乱暴な行動について、ふみ子は四年生になって次のようにとらえ返している。

ことばがでないので、はらがたつても、机を投げたりして

自分の気持ちをおさえていたのだろう。

ふみ子という子どもは、肩に大きなやけどのあとがあり、そのことで友達にいじめられた経験を持っている。そのことについて、「一度」ということになっているが、それは母親に告げたことが「一度」しかないということである。おそらくいろんな場面で、自分の体のことを言われ、時には落ち込むこともあっただろう。しかしふみ子は、やけどのあとを何も気にしていないように見せている。そんなふみ子だからこそ、話せないために机を投げるしかないゆうちゃんのを自分に重ね、その行為を「気持ちをおさえるため」と受け止められるのである。

ふみ子という子は、ふだんは物静かな子である。そのふみ子が自分に対して、次のように生き方を課しているのである。

わる口を言っている人は、その人の表面しか見ていないんだ。わたしは、ちゃんと中味まで見られるような、そんな人間になりたい。

### C 指導上の留意点

- ① いじめは、いじめられる方にも、いじめられる方にも、そして傍観している方にもそれぞれの思いがある。どちらかが正しくて、どちらかが間違っているというものではない。それぞれが深いところで結び合うための授業としてほしい。
- ② そのためには、自分の学級の中での子どもたちの関係には

日頃から目を配っておく必要がある。そしていじめられる側にいる子ども、いじめ側にいる子ども、双方の深い思いを、あらかじめ聞き出しておいてほしい。また、それを学級で発表するときは、もちろんその子どもとの間に了解を取っておかなければならない。

### D 参考

・石川の人権教育第1集「出会いを求めて」（一九八四年 石川県教組）

「人間の心を持った教師になりたい」

鈴木雅之（小松市立能美小学校…当時）

本教材を使った授業から

◆「もし、AさんがBさんと約束して、Aさんが「あの子のやぐそくならまーいーか」といってやくそくをやぶったとしたら、そこから友情がこわれる。やっぱり人の気持ちを考えてあげて、中味までみてあげることがいちばんいいことだ。ふみ子さんは、とてもやさしい子だと思った。」

「私はみためて人を判断したことが何回かあります。だって○さんは私の好きな人って□□や△△ねんよー。だってほら、今しゃべっているからといていたから○さんであーゆー人やったんやと思った。でも最近、やさしいからやっばりやさしい人だったんだなーと思った。」（羽作）

E 授業の展開例

教師の基本発問・助言	児童の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>①今日は、友達どうし理解し合うための勉強をします。</p> <p>二 展開</p> <p>②教材（プリント）を読みましよう。</p> <p>③ふみ子は、悪口を言う人をどう思っていますか。</p> <p>④それでは、ふみ子は悪口を言われている人を見てどう思ったでしょうか。</p> <p>⑤「中味まで見る」ということはいったいどういうことでしょうか。</p> <p>⑥ふみ子は、ゆうちゃんという友達をどんなふうに見ていますか。</p>	<p>①教材（プリント）を配る。</p> <p>②わかりにくい語句を説明する。</p> <p>③「表面しか見ていない人だ」というところに不快感が表れていることをおさえる。</p> <p>④「ちゃんと中味まで見られる人間になりたい」と言っていることをおさえ、板書する。</p> <p>⑤自分の生活の中での経験と重ねながら考えさせる。発言がなければ、すぐに⑥にいてもよい。</p> <p>⑥「ゆうちゃん」の詩に注目させる。表面的にはゆうちゃんは乱暴だけれど、それはそうやって自分の気持ちを抑えているのだととらえていることに気づかせ、板書する。自分の気持ちを抑えるとは、ゆうちゃんが、言いたいことがあってもことばで表せないことだととらえさせたい。</p>

⑦ ゆうちちゃんは、机を投げたりして自分の気持ちをおさえています。ふみ子がそう思えるのはなぜでしょう。

⑧ ふみ子には、自分の気持ちをおさえているところはありますか。

⑨ ⑤にもう一度戻る

### 三 まとめ

⑩ 自分たちの学級の中で、友達のことを表面だけで考えていることはないだろうか。振り返って書こう。

⑦ 発言がなければすぐに⑧にいてもよい。

⑧ やけどのあとのことを言われても、泣きごとを言わず、気にしていない様子を見せているのは、やはりつらい自分の気持ちをおさえているのだということに気づかせる。そんなふみ子だから、ゆうちちゃんも自分の気持ちをおさえているのだと思ったということをおさえる。

⑨ ゆうちちゃんの気持ちを深く考えて理解しようとしていることが、ゆうちちゃんの「中味を見る」ということだとおさえる。

⑩ 自分の思いを重ねて、友達の気持ちをわかろうとすることが、「中味を見る」ということだとまとめる。もし、いじめなどでつらい思いをしている子どもがいたら、その子どもの気持ちをあらかじめ聞いておき、この場で他の子どもたちにも伝える、その感想を書かせ、このあとの取り組みにつなげる。